

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-139	14-078	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
<b>題名（原題／訳）</b>		
<p>Age at first use of alcohol predicts the risk of heavy alcohol use in early adulthood: A longitudinal study in the United States.</p> <p>初回の飲酒年齢が成人早期で大量飲酒を引き起こす危険性を予測について：アメリカにおける縦断的研究より</p>		
<b>執筆者</b>		
Liang W, Chikritzhs T.		
<b>掲載誌</b>		
<p>Int J Drug Policy. 2014 Jul 12. doi:pii: S0955-3959(14)00169-8. 10.1016/j.drugpo.2014.07.001. [Epub ahead of print]</p>		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
アルコール、アルコール関連の害、疫学		25107830
<b>要 旨</b>		
<p><b>背景：</b> 米国とオーストラリアの国家的2つのエコロジカルな横断的研究によると、飲酒体験が早いほど精神・健康状態の良い者も含む一般集団において大量飲酒の頻度が増加することが示唆されている。本研究では飲酒体験年齢と大量飲酒のリスクとの関連についての仮説を縦断データを用いて検討した。</p> <p><b>方法：</b> この研究は、アメリカにおける National Longitudinal Study of Adolescent Health のウェーブ I、III、IV から収集したデータを用いた。2,316名の参加者のデータを 初回飲酒の年齢と大量飲酒（一度の機会ですら5杯の飲酒）の頻度が増加する関連を2つの異なる多変量解析、ロジスティック回帰モデルとポアソン回帰モデルを用いて解析した。また、新たに開発された代理アウトカムアプローチを用いて、測定/観察していない交絡因子について調整し評価した。</p> <p><b>結果：</b> 18歳より前に最初に飲酒した場合、将来の大量飲酒リスクと有意な関連がみられた。</p> <p><b>結論：</b> 既知及び残余の交絡因子について調整した後、若い初回の飲酒年齢がアルコールの大量飲酒のリスクと有意に関連しており、またこの縦断研究に見られた関連は因果関係があると考えられる。18歳までの禁酒はおそらく成人期における飲酒関連の問題のリスクを軽減するだろう。長期的には、この年齢層の飲酒経験を遅らせる事によっておそらく一般集団の飲酒関連の問題は減らすことが出来ると考える。</p>		